

## 車に無賃乗車し、全国に拡散中！！《セアカゴケグモ》

日本では大阪府高石市で1995年11月に発見されて以来、各地へ分布域を広げ、今年9月時点で35都府県で確認されており、一部では定着も確認されている。

### セアカゴケグモの生態と毒性

メスは体長1cm前後、黒く丸い体で、胸腹部背面に菱形が並んだような赤い模様がある、卵から成虫までの期間は約100日で、寿命は2-3年と言われている。メス1匹の総産卵数は最大で5000個。メスは巣網内に糸で包んだ卵のうを持つ。オスは体長3-5mm程度とメスより小型で胸腹部の背面に赤い模様は見られない。メスのフェロモンに誘引されて交尾後に捕食されることが多い。



セアカゴケグモ メス



セアカゴケグモ オス

餌は主にハサミムシ、アリ、ワラジムシ、ゴممシ等の徘徊性の昆虫類で、網は側溝の間隙や、ガードレールの支柱付近といった、太陽光の当たらない日陰の場所に造ることが多い。

毒性を有するのはメスのみで、咬まれると激しい痛みを感じて腫れ、全身症状（発汗、発熱など）が現れることがある。重症化することは少ないが、全身症状が現れた場合には医療機関で診察を受けたほうがよい。

毒成分は「 $\alpha$ -ラトロトキシン」で、オーストラリアでは死亡例があるが、日本での重症例は報告されていない。



卵のう



側溝の間隙などに営巣する